

生産の流れ

立場	お客様	営業	設計	工作	試験	工事	保守
主要機能	要求・予算の設定	要求事項確認 契約	要求事項の確認、明確化と手配(図面化)	要求を実現する 具体的な物の製作	製作物の機能確認(性能・耐環境)	製品の現地据え 付け稼働まで	稼働後の点検、 保守改造
情報の流れ	← 要求事項	→ 提案事項	(提案協力) 要求を実現する 機能に展開する 購入品などの指示	← 設計に従って作業 (技能発揮)	設計情報と製品 の動作の確認	→ 工事指示	改造指示 使用状況からの フィードバック
物の流れ				資材から部品納入	→ 製品	→ 据え付け工事 完了状態	保守部品 など

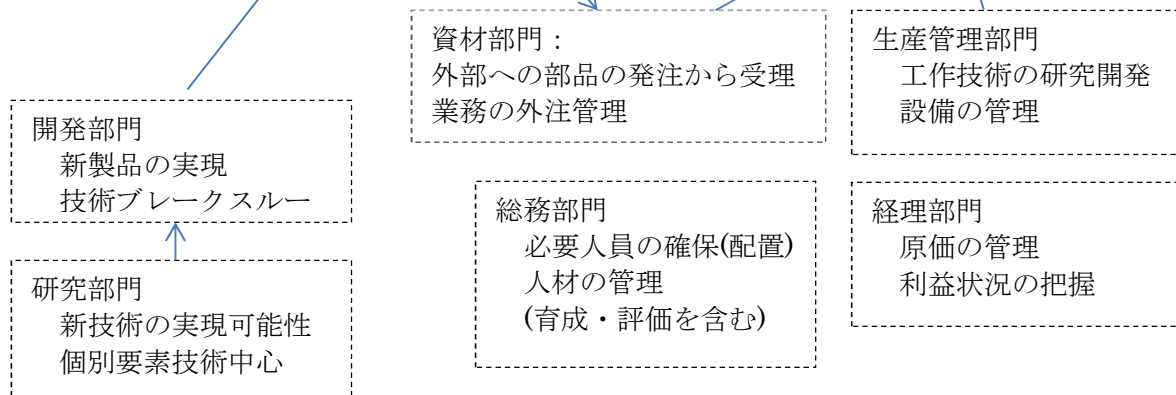


図1 個別受注生産の流れ

設計作業の説明

個別生産の設計作業は大別すると、どのようなもので要求に答えるかを定める機能設計と、実際にその機能を実現する物を作り上げるため、部品を選び配置などを決めていく生産設計に分かれる。

例えば、発電機を設計するなら、供給容量から大きさや形式を決めるのが機能設計であり、その実現のため細部を決めていくのが生産設計になる。

工作に関する総合職の役割

物づくりの現場では、技能を持った作業者が現場作業を行う。しかし彼らの工程管理、設備管理などの計画・調整機能が必要である。

また工作技術に関する技術的検討も必要である。例えば、溶接や接着、あるいは絶縁材料など種々の新技術の評価から実現までの業務もある。また IT 化した工作機械の設定などで総合職は必要である。

試験部門に関する総合職の役割

試験部門では、実務を行う多数の作業者の管理業務が必要なことは、工作部門と同様である。

一方、試験部門独自の技術的な業務として、トラブル発生時の原因究明と再発防止に関する検討がある。問題の本質を追求するため、技術の広さと深みの両面が必要である。